



# J A U W

## F U K U O K A

(社) 大学女性協会  
福岡支部会報  
2015.4.29 発行

第 37 号

### 第 53 回通常総会 (福岡)

日時： 4月27日(日)  
於： ホテルニューオータニ 14F  
「千羽鶴」  
出席： 11名 委任状：12名

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 開会の言葉  | 石田雅子  |
| 2. 支部長挨拶  | 和栗方子  |
| 3. 事業報告書記 | 青沼美撫子 |
| 4. 会計報告会計 | 桑原洋子  |
| 5. 監査報告監査 | 石田雅子  |

司会の石田会員の総会成立審査報告があり、議事(1)報告事項(2)審議事項があり、支部長、役員を選出と承認では、12年間の長きに亘る和栗支部長が、退任され、新しく加藤仁美会員が、支部長に選出、承認されました。任期の残っている役員はそのまま承認され新支部長と共に、魅力ある例会を種々計画し2014年にしていきたいと思いました。つきましては、会員諸氏のご協力を給わりたいと思います。

食事は和食で、器の美しさ、お料理の繊細さはいつも通りで、季節の食材を目や舌で、共々、吟味しながら、美味しくいただき、今年度の活動の始まりに相応しい総会となりました。

(青沼美撫子)

### 第 3 回定時会員総会

2014年5月17日(土)	評議委員会・支部長会 懇親会 日本舞踊「たぬき」 (西村理事)	於：都市センターホテル 出席：加藤仁美支部長
5月18日(日)	総会	出席者：115名(委任状447名)

今年度は役員改選が行われ、新会長に中村久瑠美氏が就任されました。長年弁護士として女性をサポートし活躍してこられた方で、著書も数冊あります。「長らくユウレイ会員だったので罪滅ぼしと思って頑張ります」とユーモアを交えてご挨拶されました。私も2007年福岡で総会が開催されて以来の久しぶりの総会出席でした。議事が粛々と進められ、不慣れで緊張した時間を過ごしました。支部の紹介では、会員の職種、年齢、地域構成など、会員構成の多様性が福岡支部の特徴であること、例会などには会員のパートナーの男性の協力があり、先駆的な男女共同参画の運営がなされていることなどをお話ししました。

(加藤 仁美)

## 7月公開講演会

◇ 講演：「絶対の否定 — 児童文学を通じて」 ◇  
講師：田部井世志子 会員（北九州市立大学）

日時：7月6日（日）  
於：中央市民センター2F 第1会議室  
出席：会員12名 他5名



梅雨空の下、時折雷鳴のとどろく会議室で私たちは、その興味津々な演題にわくわくしながら耳を傾けた。

「皆さんが、もし世の中に絶対のものがあると思う事が有れば、それを挙げて下さい」という田部井講師の問いかけでお話が始まりました。

- ・ 神の存在
- ・ 神の教え
- ・ 人間の死
- ・ 命の大切さ
- ・ 1 + 1 = 2
- ・ 男女の違い
- ・ 1日24時間

次々と挙げたところで、これらの事はある意味で絶対はないと、絶対から脱却する方法を説明されました。その方法は

- ・ 立場を変えて別の角度から見る
- ・ 人間至上主義の観点を変えてみる
- ・ 先人の作り上げた定義を否定してみる
- ・ 時間的観点・場所的観点を変えてみる

等々、絶対を否定してみることの大切さを話されました。絶対の否定という考え方は、これまでの長い人生の道のりの中で培ってきた人生観を、改めてふり返り再構築するよすがともなりました。

「それでも相対的な絶対はあるのではないか？」それと「英語の absolute, absolutely はどんな時に使われるのだろう？」と二つの疑問がまるでアインシュタインにでもなったかのように頭の中をぐるぐると廻りました。

田部井講師の教えている大学の若い学生の中には絶対を求めている傾向があり、これは彼等の幼児期からの親の影響が大きいと思われる。親の押しつけからの脱却の方法も語られました。

それにしても我々は一日に何度絶対という言葉を使うでしょう。

「〇〇より△△の方が絶対がいい」「絶対にわすれないでね」等々

第二部は絵本“Missing Piece”の Ⓒ君と Ⓓ君の2つのピースの出会いの物語と絵で始まる大変単純な且つ意味深いストーリー（画）である。この物語のメッセージは何なのか？

これも十人十色の受け取られ方があることを説明され、特に多かったのは Ⓒ君の旅を人生に例え、人生訓としてとらえられたものでした。

朗読を聞いても10分もかからず、絵本も50コマに満たないものでした。絵本1つを見て、見る人によって実にさまざまな（70種位の例）を挙げられていました。「完全さの否定」であり「欠けていることこそ良い」が作者のメッセージであろうが、読者は千差万別の言葉通り多種多様な受け取り方をしています。最愛の伴侶のことを better half とは言うが best half とは言わないのは何故だろうという疑問が少し解けた気がします。

久しぶりに学生時代に戻った私達ですが、2時間に及ぶ立ちっぱなしの講演。

田部井先生本当に有難うございました。

（石蔵 幸代）

## 9月公開講演会

◇ 講演：「『源氏物語』の語るもの」 ◇  
講師：武谷恵美子 先生  
(元筑紫女学園短期大学部教授)

日時：9月21日(日)  
於：九州大学西新プラザ2F  
多目的室  
出席：会員9名 他3名



今月の例会は源氏物語の研究者で今も各地で「源氏物語」講座をいくつも持っておられる武谷先生のお話でした。平安時代に書かれた世界最古の長編小説「源氏物語」は400字詰原稿用紙で2,000枚、登場人物500人にも及ぶ膨大な量です。先生は五四帖をコンパクトにまとめた資料を持参され丁寧に解説して下さい、時間が足りないほどでした。私たちも夫々自分の思い出を重ねつつ興深く拝聴しました。

私の「源氏物語」との出会いは高校時代、古文の時間に有名な冒頭のサワリの部分を学び、その後と与謝野晶子訳のいわゆる与謝野源氏を全編読み通した。受験勉強はそっちのけにして。あの頃の娘は、よく家事手伝いをさせられたが、勉強机の前になると、さすがに母は手伝いを言いつけないから、さも勉強しているフリをして……。私にとって読書は手伝い回避の手段だった。

晶子の訳は直訳調で文章も生硬、訳文を読みながら原文が頭に浮かぶような処もありました。また文章には主語と年月日の記述がほとんどなく、登場人物がやたら多いので、何度も前を読み返しながらかいた。その後、谷崎潤一郎と円地文子訳の「源氏物語」を読んだ。谷崎源氏は文章の流麗さが心に残ったが、円地源氏は印象が薄い。その後、瀬戸内寂聴氏や田辺聖子氏の本も出たが読んでいない。永らく私は「源氏物語」とは優美と典雅な言葉にまぶされた壮大な不倫小説かつ雅(みやび)の宝庫と思っていた。

今度、武谷先生のお話を聞き、資料を拝読し「源氏物語」には広くて深い精神生活が語られていることに気付いた。初めて宇治十帖を読んだ時に感じた或る種の暗さと無常感、その基が少し分かったように思う。若さゆえに大きなものを読み落としていた自分の不明が恥かしい。私が60年も気付かなかったことを示唆して下さい武谷先生に感謝します。でも、もう一度読み直すには体力と気力がついて行かない。それに私は源氏物語より才気縦横、カラリと明るい清少納言の「枕草子」に魅かれる人間ですから……。



今、読み返して見ると、例会報告と言うより私見「源氏物語」になってしまいました。ゴメンナサイ。

(西原そめ子)

## 勉強会（ワークショップ）

◇ 「家庭科教育から見えてくるものを、  
皆さんで考えてみませんか」 ◇  
司会進行：豊福美代会員・相良かおる会員

日時：10月25日（土）  
於：赤煉瓦文学館  
参加者：会員8名



秋晴れに恵まれた平成26年10月25日（土）10：00～12：00 赤煉瓦文学館第一会議室にて、テーマ「アンケートから見えるものを皆さんで考えてみませんか？」の勉強会が開催されました。内容は、大学女性協会が2012年6月から9月に実施した家庭科教育に関するアンケート調査の結果について豊福美代様と相良かおる様で丁寧に説明が行われ、参加者8名からアンケート結果と体験談や実生活を通じた意見交換がなされました。活発な意見がでて、時間が足りない状態で、とても楽しい雰囲気での勉強会でした。

また、個人的に全国調査の高校生アンケートにおいて、1,258名と福岡県のデータが一番多く、福岡県支部の貢献度の大きさを確認しました。支部の一員として、調査やデータ入力作業に協力させていただいた事を思い出し、大変嬉しく思いました。

勉強会の後には、福岡の水天宮の秋祭りに皆さんで参加しました。甘酒とぜんざいを頂きました。  
（松藤 泰代）

## 和栗前支部長を囲むお食事会

日時：10月25日（土）  
於：「梅の花」天神店  
参加者：13名



水天宮の秋祭りに参加した後、午後からは、「梅の花」において「和栗様を囲むお食事会」13：00～15：00に参加しました。井上洋子様のお乾杯の音頭とともに和やかな昼食会となりました。井上様が大学女性協会の歩みをお話になり、和栗様の人となりをご紹介され、新支部長の加藤仁美様の御縁をお話になり、ご持参された記念誌「50年の歩み」を通して、福岡支部の歴史を知ることができました。

さらに、今回、和栗様をはじめ参加者の皆様の入会時のエピソードなどの話を聞くことができ、福岡支部の素晴らしい皆様との出会いに感謝したいと思いました。若輩者ですが、今後ともご指導の程、よろしく願いいたします。



（松藤 泰代）

## 2014年 JAUW 全国公開シンポジウム

日時：11月8日（土）

10：30～16：40

於：日本女子大学桜楓2号館

出席：加藤仁美支部長



シンポジウムは「女性の自立とは？」という古くて今なお新しいテーマで、講話、基調講演、パネルディスカッションが展開されました。それぞれの年齢や立場で自立のために奮闘された体験談に共感しました。立派な報告書がすでに刊行されていますので詳細は省きますが、自分の年齢からして、働き続けた後の、“高齢化時代の女性の自立とは？”ということに自ずと考えが及びました。年を重ねて自立したくともできなくなった時に、人は如何に生きるかということを考えますと、お互いに助け合って生きる“共生”がもう一つのテーマになるのではないかと思います。「自立と共生」が今日のかつ将来的課題として浮上してくるのではないかと思います。

（加藤 仁美）

## 一日ツアー 福岡城址巡り

ガイド：井上光枝氏（福岡歴史探訪会長）

日時：11月16日（日）

於：福岡城址

出席：会員8名 他1名



1600年、関が原の戦いで功績のあった黒田長政は、父如水と共に、豊前国中津から筑前国名島城に移ったが52万石の領地を治めていくには手狭なため、いろいろ調査して警固村福崎の赤坂山を城地として1601年春着工し、7年がかりで「福岡城」を完成させた。「福岡」の名は長政の祖父黒田高政の出身地、備前国福岡郷に因んでいる。広大な城は美観よりも実戦本位の設計で天守閣はなく堀と土塁と石垣を中心とし、8万坪の城内に47の櫓と十数か所の門を構え周囲を囲むように堀がめぐらされている。（後藤 幸雄氏の文献より引用）

午後2時に大濠公園東側に集合、井上さんから配布された韓国語版マップと日本語版パンフレットを持ち出発。ゆるい坂を上り左手に、黒田如水夫妻の居所、御鷹屋敷跡を見ながら、名島門（名島城より移設、市指定文化財）をくぐり、「日本号」の櫓で有名な旧母里太兵衛邸長屋門を訪れたが、傷みがひどかった。（その後、修復され4月完成とのこと）本丸「表御門跡」を左手に見て、その先にある「祈念櫓」には寄らず、しだれ桜の並木道をゆっくり上り、黒田24騎の1人で、石垣作りの名手、野口一成の手になる見事な石垣の説明を受けた。土と小石と大石を組み合わせ算木積、のづら積のやり方で築かれた石垣は、頑丈でびくともしない立派なもので、それでいて美しかった。このツアーのハイライトである





多聞櫓は、二の丸南郭にあり、江戸時代から残る数少ない建物の1つで、二層の隅櫓とそれに連なる三十間の奥行きを持つ平櫓からなり、高く積み上げられた石垣を土台に築かれ「石落」が備えられていることから、防禦のための櫓であると言われている。日ごろ、入れないこの櫓に、特別の許可を得て、部屋の作りや「石落」も解説つきで見ることができ、幸運であった。坂を下り、先述の「長屋門」の前を通り抜け（伝）潮見櫓〔県指定文化財〕を開錠してもらい、急な石段を登り入ると、かなり暗く、それから二階に上がって窓を開けてもらい、改めて周囲を見ると、あちこち傷んでいるように思われた。この櫓を出て

下横にある「下の橋御門（大手門）」は、平成12年8月の不審火で焼失、その後平成18年から20年にかけての復元で、難を逃れた天井の梁や柱や瓦が大切に保存されていた。

今日は、参加者の大半がシニアなので、井上さんは、我々の様子を見ながら、ゆっくり歩かれ、しかも、面白おかしく、案内され、解散時間も正確に4時で大手門をくぐってお別れした。井上さんのおかげで、一寸した福岡城址通になった気がした。



（青沼 美撫子）

## 新年会

### ◇ 新年会とミニバザー ◇

日時： 1月25日（日）

於： ホテルニューオータニ 14F 「千羽鶴」

出席： 11名



心楽しく、嬉しかった新年会・・・出席者は11名、支部長のご挨拶、事務連絡の後、早速に板前さんの技が偲ばれるお会席料理に舌鼓を打ちました。

食事をしながら「人生いろいろ」というテーマで、和栗様がご自分のご誕生から今日までの80年の流れをユーモラスにお話し下さいました。特にJA UWとどういう経緯で関わられるようになったのか

が大変興味深かったです。10年余、支部長として福岡支部を牽引して下さいました事に改めて感謝申し上げます。会員の持ち寄った小物たちは、あっという間に売り捌かれてしまいました。実は、私は久しぶりの出席で、恐る恐る「私を憶えていて下さるかしら？」と、会場の扉を押したのですが、石田様が、「待ってたわよ。」と、ハグして下さい、とても嬉しかったです。

終始、和やかな雰囲気の中で、よく笑い、よく食べ、心も御腹も大満足のひと時を過ごすことが出来ました。お世話下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。



（榎谷 紀子）

## 3月例会

講演：「日本文化における礼儀・行儀作法」

講師：西原そめ子会員

日時：3月8日（日）

於：あすみん 5F

出席：会員9名 他3名



あちこちから春の便りが届く中、初めての会場「あすみん」にて季節感あふれる3月例会が始まりました。小学生のころから茶道を学んだといわれる西原会員は、由緒ある大島紬の和服に身をつつんでの講演でした。第一部は日本の精神文化の原点ともいえる「おもてなし」についてのお話でした。この心の根元にあるのは、相手を思いやり、相手の心に沿って動き、相手を快くさせようとする、いわば仏教でいう慈悲の心が形になったものであり、それが言葉に表されると尊敬語・謙譲語・丁寧語になり、体（動作）で表現すると相手に尊敬の気持ちを表すお辞儀をはじめとする美しい動作であり、「礼儀作法・行儀作法」と呼ばれるものになります。

第二部では実習です。茶席での茶碗の扱い方、特に廻すことの意味、亭主や同席の方々へのあいさつの仕方、美しく食べる作法、特に手指の使い方等の説明をうかがいながら、春らしいお菓子と心のこもった香り立つお抹茶をいただきました。

一服のお茶に心和み、ともすれば多忙にとりまぎれて忘れがちな心の豊かさ、心の平穏を教えていただいたひとときでした。また日頃の自分の立居振舞の反省にもつながりました。

世界文化遺産に選ばれた和食も、料理そのものだけでなく、和食にまつわるいろいろな行儀作法も伝えていくことが大切だと感じました。



（石藏 幸代）

## 会員だより

### 陶芸家への道

小さな時から、両親と離れて育った私にとって、食器を制作することが「家族の絆や愛情」を意味していました。我が家には、いつも母の好きな陶磁器があり、母亡き後、それらは思い出の詰まった大切な「器」となり活躍しています。

日常雑器を作りたくて、大学で陶芸学を学び、そして、アメリカの陶芸環境にあこがれ、1979年に渡米。それが、「現代陶芸」との出会いでした。

### 帰国後の活動

#### ■ アーティストとして

作品のカラーやフォルム（形状）などは変わりますが、作品の根底には「愛情」というテーマがあります。また、日本財団から頂いた助成金（API）で2005年にタイの遺跡、美術画廊、市場、陶器専門店、デパート陶器売り場、小売商店等を取材・調査し、日本の独自の文化やアイデンティティーも、急速な経済発展により衰退していることに気づきました。帰国後に食器作りを再開したのも、器を通して「家族の絆」というテーマがあったからです。

## ■ アートコンサルタントとして

2009年からは、タイルデザイナーとして、手触りや手仕事の心地よさを大切にする感覚を生かしたいと考え（株）平田タイルと“Itsue Ito”とのオリジナルブランドも始めました。

## ■ 市民として

2003年からは、宮崎市教育委員会との「ふるさと先生（出前講座）」で市内の小中学校へ出向き、生徒と共に「創造する楽しみ」を体験しています。また、「いつえ陶芸スクール」やワークショップを催しながら、アートが与えてくれる「至福の時」を感じています。



最後に、縄文時代の人々が原野に想いをはせたように、私もパソコンに囲まれながら、「生きていくこと」を、「想いや願い」を土の作品に託し、作品を通して人々とつながり、より善い「人間」へと成長したいと思っています。

（伊藤 五恵）

---

## 大学女性協会（JAUW：Japanese Association of University Women）

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟（IFUW：1919年創立）に加盟。2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織（NGO：Non-Government Organization）です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ：<http://www.jauw.org/>

### 会費

入会金	1,000 円（正会員のみ）
年会費	正会員 7,000 円（IFUW 年会費を含む）
	賛助会員 6,000 円

福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

## 国際大学女性連盟（IFUW：International Federation of University Women）

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

### 目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する